

平成27年度 第1回生涯学習センター運営審議会 会議録

- 1 開催日時 平成27年7月23日(木) 9時30分～11時30分
- 2 開催場所 人材かがやきセンター 5階研修室
- 3 出席委員 19名
丸山委員長, 大矢副委員長, 竹内委員, 伊藤委員, 近藤委員, 岩戸委員, 増淵委員, 石塚委員, 高岡委員, 荻原委員, 小林委員, 長谷川委員, 塩田委員, 君島委員, 栗原委員, 佐々木委員, 羽石委員, 宇賀神委員, 斎藤委員
- 4 会議の公開・非公開の別 公開
- 5 傍聴者 0名
- 6 内容
 - ・ 生涯学習センター運営審議会について
 - ・ 正副委員長選出
 - ・ 議事
 - (1) 各種協議会への委員の推薦等について
 - (2) 平成26年度生涯学習センター事業運営の評価について
 - ・ 宇都宮市における地域教育について
 - ・ 生涯学習センターの役割について
 - ・ 報告
 - (1) 平成27年度生涯学習センター事業運営の考え方について

7 発言の要旨

事務局	【生涯学習センター運営審議会について説明】
事務局	【正副委員長選出について説明後, 荻原委員に仮議長を依頼】
荻原委員	委員長が決まるまでの間, 仮議長を務めさせていただきます。 「委員長及び副委員長の選出について」事務局より説明をお願いします。
事務局	【資料について説明】
荻原委員	事務局より説明がありましたが, いかが取り計らいでしょうか。
宇賀神委員	事務局から案があれば, お願いします。

荻原委員	事務局案というご発言がありましたが、事務局案に従って選出することとしてよろしいか、お諮りします。委員の皆様いかがでしょうか。
全員	異議なし。
荻原委員	それでは、事務局より提案してください。
事務局	【事務局より、丸山委員を委員長、大矢委員を副委員長に提案】
荻原委員	ただ今、事務局より提案がありましたが、丸山委員を委員長に、大矢委員を副委員長に、という提案ですが、これについてご異議ございませんでしょうか。
全員	異議なし。
荻原委員	異議なしとのことですので、決定いたします。それでは、これからの議長につきましては、丸山委員長にお願いします。委員の皆様、ご協力ありがとうございました。
丸山委員長	ただ今、ご指名いただきました丸山でございます。 行政的なことについては不慣れな点がございますが、宇都宮に50年以上住み、多少なりとも貢献できればと考えております。実りある審議会になるよう努力したいと思っておりますので、委員の皆様のご協力のほど、よろしくをお願いします。
大矢副委員長	副委員長にご指名いただきました大矢と申します。昨年度に引き続き副委員長を仰せつかりました。 私は多くの委員会に出席しておりますが、この委員会は熱を帯びたすばらしい委員会だと思っています。すばらしい委員会で2年間つとめあげたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。
丸山委員長	それでは、議事を進めて参りたいと存じますが、円滑な議事進行につきまして、委員のみなさまのご協力をお願いいたします。 まず、議事（1）の「各種協議会への委員の推薦等について」、事務局から説明をお願いします。
事務局	【資料について説明】
丸山委員長	ただ今、事務局から説明がありましたとおり、この会議の委員の中から「栃木県公民館連絡協議会」の役員を選ぶということです。事務局で案がありましたらご提案いただこうと思いますが、みなさまいかがでしょうか。

全員	異議なし。
丸山委員長	それでは事務局案をお願いします。
事務局	【事務局より評議員に近藤委員，部会委員に宇賀神委員・斎藤委員を提案】
丸山委員長	ただいま，事務局から候補者案が挙げられましたが，いかがでしょうか。
全員	異議なし。
丸山委員長	<p>ありがとうございました。それでは事務局案に従い，決定したいと思います。選出されました委員の方々，よろしくお願いいたします。</p> <p>次に，議事（２）の「平成２６年度生涯学習センター事業運営の評価について」事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	【資料について説明】
丸山委員長	ただ今の説明につきまして，ご意見・ご質問がありましたらお願いします。
伊藤委員	資料５の４ページにある講座数一覧のうち，子育てを対象とした事業について，延べ参加者数の数字は親と連れてきた子どもを合わせた数字ということでよいでしょうか。
事務局	はい。数字としての単純集計になります。
伊藤委員	以前の会議でも同じような発言をしたのですが，親と子どもの数は分けて標記したほうがわかりやすいのではないのでしょうか。子育て世代対象事業になるかと思いますが，学習効果が大きく期待できるのは親世代だと思いますので，参加者の子どもの人数は括弧書きで記載するなどしてほしいと思っています。
事務局	学習効果としては，親がメインかもしれませんが，子どもについても親と一緒に体験することで学びの効果があると考えております。ご指摘のありました統計の方法については，検討してまいります。
伊藤委員	確かに子どもにとっても学習効果があると思いますが，講座の参加人数等の統計資料としては，親と子どもを別に集計したほうがわかりやすいと思っています。私も最初統計を見たときに，こんなに大勢の人が参加しているのか，と驚いたのですが，親を対象としている講座であるから子どもの数は括弧で表現するなどしていただきたいと考えています。統計としては親が何人，子どもが何人と集計したほうが有効ではないでしょうか。

	また、子どもの数を明確にすることで、託児についても考える機会になるのではないかと思います。
事務局	いただいたご意見を持ち帰り、検討いたします。
宇賀神委員	青少年対象の事業に関しても、主体が小学生であっても保護者の支援がある場合があります。そういった数はとっているのでしょうか。講座を支えている人たちの存在がはっきりと見えるような統計にしてもらいたいと思っています。
丸山委員長	事務局いかがですか。
事務局	集計方法については、所長会議・担当者ミーティングなどで検討します。
宇賀神委員	連携する団体を明記することも必要ではないかと考えています。私は実際に生涯学習コーディネーターをやっていて、団体との連携プレーはこれからの生涯学習センターにとって、非常に大切になってくると感じています。備考欄にでもよいので、連携している団体名を記載してほしいです。
事務局	地域や団体との連携の表現のしかたについても、来年度に向けて検討していきたいと思っています。
丸山委員長	親子の参加者については「何組・何名」と資料に記載がありますので、ある程度の人数は把握できるように思います。ただ伊藤委員の意見も最もだと思う一方で、煩雑な作業であるとも思いますので、統計の取り方については事務局で検討していただければと思います。
大矢副委員長	26年度の実績集計表に、委員の皆さん意見を反映して公開することはできますか。そのほうが良い点悪い点見えてくると思いますし、委員のみなさんからの意見も出やすくなると思うのですが。
事務局	親子の人数については各センターの把握状況もありますので、今回はお示しするのは難しいかもしれませんが、宇賀神委員にご指摘いただいた連携団体については、お示しできると思います。
大矢副委員長	単なる統計の記録ではなく、この審議会の意見が生きた表になればよいかと思いますので、よろしくをお願いします。
伊藤委員	集計を綿密にすることもセンターの評価につながるように思います。
事務局	集計方法については見直す方向で検討していきます。

丸山委員長	他に何かありますか。
竹内委員	<p>参考資料2の生涯学習センターの役割の項目の中に、「市民活動センター併設館では、地域コミュニティセンターにおける活動の支援も行なう。」とあります。私自身、陽東コミュニティセンターで事務の手伝いをしています。みんなでまちづくり課ではコミュニティセンターに関しては指定管理という制度をとっており、事業実施にあたってはコミュニティセンターの職員だけではなく、地域の間人も取り込んでやってくださいと言われていました。ただコミュニティセンターの職員は1人であり、地域の実情に応じた事業をできているかどうかという、ノウハウが足りないという現実があります。そういった面で資料に記載があったとおり、コミュニティセンターに対するますますの支援をお願いしたいです。</p> <p>次に質問ですが、資料5の重点項目の(4)にある、「指導者養成を目的とした講座」について、講座の参加人数はわかりますか。また、そこに参加した人がその後地域に入ってどのような活躍をしているか、把握していれば教えていただきたいです。</p>
事務局	<p>参加人数については手元に詳細な資料がないため、委員の皆様には後ほど情報提供させていただければと思います。(事務局追記：参加人数1, 945名)</p>
竹内委員	<p>指導者養成講座をするということは、養成する市の職員のコーディネート能力が問われるのではないかと思います。本審議会で審議する事項ではないかもしれませんが、今、宇都宮大学で社会教育主事養成の講習にも職員の方が参加されているということですから、そういった専門的な能力をもった職員をどんどん養成し、指導者の養成につなげていければと思います。</p>
事務局	<p>お話にもありましたとおり、現在、宇都宮大学で行なわれている社会教育主事養成の講座に、市の職員も参加しており、人材育成にも取り組んでいるところです。そういった場で学んだ職員のその先の活動についてもしっかり進め、生涯学習センター運営などに活かしていければと考えています。</p>
岩戸委員	<p>本審議会で提供された資料は市のホームページにアップされていますか。</p>
事務局	<p>今回の資料は審議会後にホームページに掲載します。以前の審議会の資料については市のホームページで確認いただけます。</p>
岩戸委員	<p>先ほど話に出た社会教育主事講習に参加した職員の次のステップについてどう考えているのか、もう少しお聞かせいただきたいのですが。</p>
事務局	<p>社会教育主事講習に参加することで職員のスキルアップをはかっていると同時に、それぞれの生涯学習センターや地域にあった講座を開催するなど取り組んでも</p>

らっているところです。定期的実施している担当者ミーティングの場などで、講座の紹介や悩みの共有などを図って参ります。

岩戸委員 年間の生涯センターの講座に係る予算についてお伺いできればと思います。

事務局 平成25年度の決算ベースのデータになりますが、762万円余になります。

丸山委員長 他にご意見などありますか。

宇賀神委員 資料5の2ページの下段にあります、「講座企画・運営ボランティアスタッフ（Vスタッフ）」について、昨年度制度の見直しを図り、今年度から施行しているということですが、そういったスタッフを十分に活用してもらうことを、予算を組む前に生涯学習センターに意識してもらいたいという要望がありますので、Vスタッフの企画運営講座の効果的な活用について、検討をお願いします。

事務局 Vスタッフ制度については、今年度中に予定をたて来年度から本格的に実施することになっています。こうしたことからVスタッフの活動の場を増やすべく、Vスタッフの企画運営講座について全生涯学習センターにも説明したところです。これまでと一番変わった点としましては、これまでは決まった生涯学習センターでのみの活動だったものが、市内すべての生涯学習センターで活動できるようになったということです。

丸山委員長 他に何かありますか。

岩戸委員 要望ですが、運営審議会委員になるにあたって、各生涯学習センターの所長・副所長の名簿があれば欲しいのですが。また運営審議会の役割について、何をすればよいかをもう少し説明をしていただきたいと思います。

事務局 名簿については後ほど提供させていただきます。生涯学習とは地域の皆さんがよりよい地域社会づくりや、生き方をしていくために行政がどのような学びを提供できるかということにつきると思います。学びの場でどういう事業や学習を地域の方が求めているかというご意見をいただくことが重要と考えております。地域でご活躍の委員の皆様は、「センターでこういったことに取り組んでもらいたい」という忌憚ない意見をいただく場です。すでにご活躍の皆様の経験と知識をもって話していただけるこの場は非常に重要だと考えております。

岩戸委員 委員にセンターの講座を見に行くように要請することはあるのでしょうか。また各センターの取り組みを委員が見に行くことは可能なのでしょうか。そうすることで評価ができるようになると思うのですが。

事務局	センターの情報に関しましては、次の報告で使用する資料6の8ページ以降にまとめてあり、ご参考になるかと思えます。資料には事業の実施時期という形でおおまかな記載がありますが、詳細な日程については広報紙や新聞、回覧板などで周知することになっており、委員の皆様が各センターの講座を見学されたい場合は、センターに直接ご連絡いただければと存じます。
岩戸委員	ぜひ講座を見てから評価したいと考えております。委員個別に案内を出してはどうでしょうか。
事務局	委員の皆様への個別に対しての案内は、今後の検討とさせていただきます。
丸山委員長	ありがとうございました。他にはどうでしょうか。
高岡委員	センターの講座募集の方法についてお聞きします。これまでの資料を拝見しますと、各講座の募集方法についての記載はなかったように思います。チラシ、広報紙、新聞、回覧板で募集をかけているようですが、方法によっては情報を届けたい人に届いていないのではないのでしょうか。センターでは募集方法についての話し合いをもっているのでしょうか。SNSなどデジタルを駆使した方法について検討してみてもと思うのですが。その辺についてはどうお考えでしょうか。
事務局	募集方法について、すべてデジタル化してはおりません。参加してほしい世代がそういったデジタルに対応した世代となったときに、今までの周知方法では伝わらないということが起きると思います。そういったときに周知方法を考えることになるのかと考えています。
高岡委員	回覧板などは高齢者向きのように感じます。若い世代の方は見ないのではないのでしょうか。募集方法については世代間のズレがあると思いますので、何とかそのズレを埋めていただきたいです。
事務局	今年度よりはじめている担当者ミーティングで意見交換をしながら、世代に合わせた情報発信方法を検討していきたいと思えます。
伊藤委員	市のホームページをみると、中央生涯学習センターの講座は見ることもできるようですが、すべてのセンターの講座については見ることはできないようです。また広報紙に講座の募集は掲載されますが、その記事だけでは内容がほとんどわからないというのが実情です。内容については各センターで配布しているチラシが詳しいと思うのですが、このチラシを各自治会を通して回覧するのもよいのではないのでしょうか。講座の内容がわかれば興味関心を呼び起こすことにもつながるように思うのですが。

事務局 講座の周知方法については、各講座の対象世代に合わせたやり方を担当者ミーティングや所長会議の場で検討していきます。

丸山委員長 他にご意見はありますか。

佐々木委員 資料の重点項目については、よく精査された取り組みだと思います。先ほどから議論にあるとおり、数値的な統計では評価が難しいこともあると思いますが、ひとつのものさしとして数値が伸びているのは高く評価できます。さらに質的に高めていくための手法として、他の委員の皆さまの意見を受け止めさせていただきました。

1つお願いしたいのは、私は年代別の講座を重要視しております。青少年対象事業と一括りにはされていますが、小学生対象の講座はあっても中学生という言葉は1つも出てこない。これは私共も考えなくてはいけないことですが、中学生が部活ばかりして地域に見えないということもあるのかもしれない。センターには中学生を対象にした事業をぜひ一つでもお願いしたいと思います。広報の方法については、学校側に配布するというやり方もあるので、協力させていただきたいと思っております。要望事項として今後の講座企画の上で検討していただければと思います。

丸山委員長 ありがとうございます。他に無いようですので、この件につきましては以上といたします。

次に報告（1）の「平成27年度生涯学習センター事業運営の考え方について」事務局から説明をお願いします。

事務局 【報告（1）「平成27年度生涯学習センター事業運営の考え方について」説明後、出席のセンター所長より平成27年度の基本方針と重点事業について説明】

丸山委員長 ありがとうございます。事務局とご出席のセンター所長より「平成27年度生涯学習センター事業運営の考え方について」ご説明いただきました。この件につきましてご意見・ご質問がございましたらお願いします。

伊藤委員 先ほどの参考資料1に記載があった、地域かがやきプロジェクト、通称CKP事業は素晴らしい事業だと考えています。CKP事業こそ地域で活動しているリーダー格の人が知るべきプロジェクトではないかと思っておりますので、重点項目（4）に書き加えるなどもっと周知・徹底してほしいと考えております。資料6には今年度のCKP事業の計画が見られないのですが、その点についてご説明いただければと思います。地域活動団体との連携を深め、地域で活動している人の知恵を借りて実施すべき事業ではないかと思っています。

また各センターが実施している「男の料理教室」について、質問です。「男の料理教室」を4センターで実施しているようです。昨年度この事業を実施したセンターのうち、上河内生涯学習センターでは受講者が固定化していることから今年度は廃止するとの記載があります。それに対し、「男の料理教室」を複数年続けて行なって

いるセンターもあるようです。受講者が固定してきたらサークル化を促すなどすべきではないでしょうか。何年も1つのテーマの講座を実施することについて、生涯学習課がどう考えているのか、お聞かせいただけますでしょうか。

事務局

まず、CKPについてですが、センターの職員は、まちづくりと生涯学習を兼務しております。CKPは生涯学習の予算を使い、まちづくりに資する講座を運営するものです。そういう点からもまち協との共催が多く、このような点から地域団体との協力が図れていると考えております。また、この事業に関しては、当初予算でセンターが計上できていなくても本課でキープしている予算を使って、詳細が決まった時点で事業をできるようにするという形をとっています。そのため資料上、確認はできませんがCKP事業としては今年度すでに10事業が実施予定であり、実績報告の際には委員のみなさんに確認いただけるかと思えます。

次に、男の料理教室についてですが、定年を迎えられ第二の人生を迎える男性が地域に入っていくのに「料理」は入りやすいテーマであるとセンターから聞いております。料理、たとえばそば打ちなどを通してまず仲間作りをし、次のステップとして講座に参加し、サークル活動であったりまち協の役員になっていただいたりなどする。実際、講座開催にあたっては、毎年新しい人を引き込むような工夫を各センターの方でしているようです。また「男の料理教室」は人が集まりやすい講座であることから、この名称を使い続けているところでもあります。

丸山委員長

ありがとうございました。伊藤委員からは非常に重要な論点をあげていただきました。時間も限られておりますので、この審議会の宿題として今日、発言されなかった委員のみなさまにも次回にはご発言いただければとおもいます。それ以外にご意見はございませんか。ないようですので、以上をもちまして、本日、予定しました議事はすべて終了いたしました。委員の皆さまには、円滑な会議の進行にご協力いただきまして、ありがとうございました。それでは、進行を事務局に戻します。

事務局

それでは次第8その他ですが、局から事務連絡がございますので、事務局お願いします。

事務局

【次回の会議日程について説明】

事務局

皆様、大変ありがとうございました。本日は、委員長を始め委員の皆様、長時間にわたるご審議誠にありがとうございました。以上をもちまして、平成27年度第1回生涯学習センター運営審議会を閉会いたします。